



松音寺本堂の天井絵を描いた絵師と、蒲池住職（中央）＝島原文化会館

「蓮池の間」に区分。本尊を安置した内陣には熊谷教授が描く「宇宙の間」をしつらえる予定という。  
 蒲池住職は「古里の美しさを後世に伝えたい」と話す。会場では7日午後3時から、熊谷教授ら5人によるギャラリートークを予定している。（緒方秀一郎）

## 松音寺 安穏願い天井絵

島原文化会館で一部公開

島原市有明町の松音寺で74年前に建立された同寺本堂の天井板を使った「天井絵」の制作が進められ、その一部が城内1丁目の島原文化会館で公開されている。農業が盛んな有明の野菜や庭先の花々、浄土を象徴する蓮池など108枚を島原ゆかりの絵師4人が描き、会場はみずみずしい色彩に満ちている。7日まで。入場無料。

同寺は1818年に開かれた浄土真宗本願寺派の寺院。蒲池興照住職（74）から次の住職に継職するに当たり、「世の中安穏なれ」との願いを込めて2021年から天井絵制作の準備を始めた。

本堂のスキの天井板（縦

横各約50センチ）のきを抜き取り丁寧に洗浄。同市出身で、祭城大芸術学部長の熊谷有展教授に監修を依頼した。22年から熊谷教授の妻有子さんや、市内在住の画家、佐藤利宗さん、松田隆治さん、岩村良之さんの計4人が協力し、アクリル絵の具で描いている。

会場には48枚を使って合作した「蓮池の図」のほか、有明町で見られるトマトやピワ、サクロなどの農作物、タンポポやコデマリなどの花々を描いた計60枚が並べられ、来場者を楽しませている。

同寺によると、天井絵の総数は約400枚になる見通しで、本堂は外陣を「農作物の間」「令和の花の間」